

平成 28 年度第 2 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 29 年 3 月 16 日（木）午後 3 時～4 時 55 分
- 会 場 鶴岡市第 3 学区コミュニティセンター大ホール
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 13 名
(名簿資料【0-0】のとおり)
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 24 名
(名簿資料【0-1】のとおり)
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0 人

(午後 3 時 開会)

1 開 会 (進行：コミュニティ推進課長)

2 挨 拶 (市民部長)

3 意見交換等

(事務局) 資料 1、資料 1-1～1-4 により事務局説明

(委員長) 鶴岡市地域コミュニティ推進計画が策定されてから 1 年が経過する。事務局から市のコミュニティ施策について、今年度の取組の報告と次年度の取組について説明があったが、取組の進捗状況に対する質問や次年度事業についてのご意見等をいただきたい。

(H委員) 廃校となった学校の体育館を地域住民が使用するのに使用料が発生しているのに、地域にその施設の維持管理が求められており自治会で困っている。地域づくりの拠点となる施設の維持管理については、行政と住民が一緒に行っていけば良いと思う。地域住民からは、使用料を徴収しない代わりに、施設の床のワックスがけや掃除等を行っていただくなどの方法であれば、住民も施設に愛着が持てると思う。

(委員長) 恐らく、他の地域にもある事例ではないかと思うが、行政と地域がお互いに歩み寄りまさに協働のご提案をいただいた。委員からは、要望ということだが事務局いがか。また、他の事例があれば紹介いただきたい。

(幹事：朝日庁舎総務企画課長) 廃校となった体育館を地域の人に無料で使わせてほしいとのご要望があったが、旧大泉小と旧大網小の体育館は、すでに無料でお貸ししており、使用後は、使用者から掃除していただいていると認識している。

(H委員) 体育館の床は、ワックスを塗っていないため剥げているらしい。税金で作った施設なので、壊れる前にメンテナンスをし、地域がより効果的に使えるようにしていた

だきたい。

(委員長) 公の施設の利用、特に廃校利用などは大事な点で、できるだけ住民の方々も参画した上でお互いの意識啓発が必要と思う。

(I 委員) 資料1の4ページ、来年度の取組(3) 広域コミュニティ組織の育成・支援に、新規事業として、子どもたちの未来を考えるワークショップの開催とある。そのような情報は、市全域に周知してほしい。自分自身は、この会議に出席し情報を得られるが、地域の活動センター等は、情報が伝わりにくいところもあると思うので、ぜひ各地域庁舎からも情報発信してほしい。

(委員長) 大変期待される事業なので、皆様からも周知徹底をよろしくお願いしたい。

(G 委員) 私は、学区の振興会長から2～3日前このお話を頂いた。地域に情報は届いているが、漠然としており、何をしたらよいか分からないという状況だと思う。具体的な取組事例や、こうした方が良いなどのアドバイスがあると、地域でも取組やすいと思う。私も子どもを対象とした事業は大切と思うし、ワークショップを取り組みたいと思うが、子どもの参加をどう促すかが課題である。地域の子どもたちから、自分たちの住んでいる地域に目を向けてほしいと思い、夏休みは善寶寺、昨年暮れは「だるま市」について学ぶ事業を企画し実施した。後半の事業は、だるま市の歴史を聞き、光明寺の住職さんの琵琶を聞くという内容で、小学校の校長先生からも良い企画なので、子どもたちも集まるだろうと言われたが、結局集まったのは10人不足だった。土曜日に開催したため、スポ少の練習等があり参加できなかったのか、子どもたちが家庭でおたよりを見せていないのか、親御さんが見ても興味がないのか、参加者が少なくとても残念だった。教科書の勉強だけでなく、地域を知ることの大切さを先生から子どもたちに働きかけていただくと、子どもたちへの伝わり方も変わってくると思う。子どもの未来ワークショップは、小学生対象というよりは中高生対象でやったら面白いのではと思っているところだが、参加者集めをどうしたらよいか悩ましいところである。

(委員長) 今、具体的な提案をいただいたが、学校やPTA等との共催や何かの事業と抱き合わせで取り組む方法もあると思うし、コミセンの大きな事業として位置づけ、皆で応援してやることも大事かと思う。他に関連のことも、別のことも構わないのでいかがか。

(N 委員) 資料1の4ページの(2) 地区担当職員制度の推進の取組内容の①地域づくり懇談会に関連してお話しさせていただきたい。昨年、私の地域で、1回だけだが、高齢者支援ネットワークを作ろうということで、高齢者が集まっているところをリストアップし、これを一つのコミュニティビジネスとしながらやっていこうと、庁舎の市民福祉課、社会福祉協議会、包括支援センター、自治振興会等の団体が集まり打合せをした。結果的に事務局をどこで担当するのかという話になり、事務も煩雑になることから話が頓挫した記憶がある。この件について、もう一度関係者から集まっていたらと新年

度に「住みよいまちづくり懇談会」を計画しており、様々な団体との連携の際に行政からの支援をいただきたい。また、手間暇かかる事務局をどこで持つかが問題となっており、何か良い方策があれば教えていただきたい。同じく資料1の5ページ(6)生涯学習の推進の取組として、生涯学習推進員を対象とした研修会の開催とあるが、推進員の30～50代のほとんどの方は会社勤めをしており、平日の日中の参加が難しいため、休日や夜の開催にしてはどうか。

(委員長) まず一つ目は、介護保険事業の改正等も含め、いろいろな日常生活の支援を行っていくという、新しい仕組みづくりについて話し合いをされたと思うが、その時に事務局を誰が担うのかということになったとお話を伺っている。難しい課題だが何か委員の皆様から良い事例などの情報がありましたらお願いしたい。

(K委員) 結局、事務をやる人を新たに雇うか、どこかで雇われている人に片手間でやってもらえないか。どういうネットワークを作ろうとしているのか詳しくわからないが、例えば社協の藤島センターが片手間でできるようなものであれば、それに協力することは可能かと思うが、大掛かりなネットワークを準備するとなると、社協では対応しづらいこともあるかと思う。住民に呼び掛け、それなりの拠出金をいただきながら要員費を確保していくという手法が一般的かと思うが、住民が年間100円、200円のお金を出してくれるか悩ましいところ。例えば第三学区の支え合いのネットワーク活動は、ボランティアの調達は町内会長、活動のコーディネートは学区社協、そして住民ニーズを拾うのは民生委員という協働スタイルで、事務局をコミセンに置いている。三学区社協の例としては、役員の方たちがコミセンに曜日交代で出てきて、相談業務や学区社協の仕事をするなどの体制を敷いている。

(委員長) 第三学区の事例が一番現実的かと思う。酒田でも同じような支え合い活動があり、コミセンが事務局になりつつ、行政の場合は地区担当職員や社協の職員が協力し、また、いろいろな人が交替で、あるいは毎週月曜日のみ事務局を開くと決めるなど工夫し運営されているようだ。もう一つの生涯学習推進員の研修会の開催日時について、事務局いかがか。

(事務局) 今年度、生涯学習推進員の研修は平日の夜に開催している。来年度も多くの推進員の方から参加していただけるよう、開催の曜日や時間帯等を検討します。

(委員長) 是非できるだけ、いろいろな方が参加できるようにお願いします。

(O委員) 私の住んでいる学区の安全安心の絆づくり推進会議で、2030年には、かなりの町内会の高齢化率が40～50%になり、人口も半減するという推計が出ていた。2030年まであと13年あるが、もうすでに高齢化率が40%になっている町内会もあることを見れば、推進計画にあるように将来を見据えたコミュニティづくりという点では、もっと深刻な課題になりうるのではないかと考える。どういう取組を進めていくべきか、一つの町内会だけで対応できる課題ではなく、地域全体の課題として考え、市

の方針としてどういう方向性を打ち出していくのかというのをもっと鮮明に打ち出していかないと、崩壊につながるのではないかと危機感を持っている。組織統合もここ1、2年進みは始めている。4町内会で1つの町を形成しようというところでは、公民館が2つ、神社が3つ、これをトータル的に地域で維持管理できるのかという点も大変心配なこと。今の計画は計画として取り組みつつ、将来を見据えた計画づくりに向けて、少し前倒しで組織的に全庁的なことを把握し、先を読みながら取り組んでいく必要があるのではないかと。私も地域に呼び掛けていかなければならないという思いで現在地域活動に従事している。

(委員長) 私も同じ町内会で切実な思いでいる。今、動いている計画はあるが、もっと積極的に具体的なビジョンの策定も含め、次の計画も視野に入れて取り組みを進めるべきではないかという最適なお提案をいただいた。○委員の意見に皆さん賛同と思うが、関連してこういう取組をしてはどうか、進め方も含めてご提案があればお願いしたい。

(J委員) 私の地域も毎年人口が約100人減少しており、高齢化率も高い。このまま人口が減少したらどうなるのだろうかという危機感を感じている。私は、コミュニティ活性化推進委員会への出席や、経営塾で勉強をさせていただき、私も何か行動しなければならぬと思ひ、福島の花見山のように、私の場合は岩だが、訪れた方たちから見て楽しんでもらいたいと庭の整備を進めている。これまで関わっていただいた先生方の指導から、私たちの地域は目的や目指す方向がはっきりしておらず、地域住民が危機感すら感じていないのかもしれないと思った。空き家、空き店舗が増えており、自分の住んでいる場所で生活が出来なくなるかもしれないという深刻な状況を受け入れられないのかもしれない。先日、国土交通省の先生とお会いし、現状や取組、地域を何とかしたいという思いを伝えたところ、先生から講演に来ていただけることになった。私は、この先、地域が目指す方向性を、住民同士が情報を共有しながら皆で一緒に考えて行きたい。

(委員長) 先ほどの○委員のお話と合わせて、目的、どこに向かっているのか、それから住民の危機意識が本当にあるのかどうかというご発言をいただいた。皆様から今の段階でご発言ありましたら是非お願いしたい。

(D委員) 皆さんのお話を聞き、資料1の4ページの(3)の④地域の子どもたちと未来を考えるワークショップ開催については、先ほど学校、先生を巻き込んでご提案があったが、子どもの親を巻き込むことも考えたら良いと思う。子育て世代は、子どものスポーツや部活動に係るネットワークはあるが、地域のことはなかなか興味を持っていないかもしれない。例えば、小学生対象であれば、授業参観のように親をうまく引っ張ってきて、子どもたちと一緒に地域のつながりを考える会など、親子で参加することにより、家庭内でも地域のことが話題になり、地域に興味を持つチャンスになると思う。地域の青年、女性対象のワークショップは、出来れば広域で開催していただければ出会いのきっかけになると思う。地域の活性化は、私たち子育て世代が未来を担う子どもたちと一緒にしっかり考えて行かなければならないと思う。

(委員長) 皆様からたくさん具体的な提案をいただいたが、今までこの委員会の委員同士の連携はそれほど多くはなかったような気がする。委員のお話を伺い、例えばこの青年女性ワークショップをやるときに、委員も協力し積極的に参加を呼びかけしたり、地域で一緒にやってみたり、あるいは山形大学や公益大も含め、小学生対象のワークショップをやる際に大学生がファシリテーターやコーディネーターをやり、そこに親から来てもらい刺激を受けてもらうということも出来ると思う。色々な組み合わせで協働を進められたら良いと感じた。難しい課題がたくさんある中で、まさに課題に向かい地域ビジョンの策定やステップアップ事業補助金を活用しながら、地域で本当に一生懸命取り組まれている、温海川自治会会長の忠鉢孝喜さんと、藤島地区自治振興会会長の齋藤建さんから事例を発表していただいた後に、委員の皆様から質問や意見、あるいは何かまた良いアイデアをご提案いただきたい。

【事例発表】

温海川自治会 会長 忠鉢孝喜 氏、 藤島地区自治振興会 会長 齋藤 建 氏

(委員長) お話を聞かないと分からないこと、成果も含めてたくさん勉強させていただいた。発表の内容や取組について、質問、意見あるいは感じたことなどを出していただきたい。

(H委員) 藤島地域の事例はすごいと思う。齋藤さんをそこまで突き動かしているのは何か聞きたい。

(委員長) その情熱はどこからくるのか、是非教えていただきたい。

(齋藤会長) これが好きなだけのこと。私は振興会の会長として火、木、土曜日に活動センターに出ており、イベント等にも行くし、大体夜は星を見ながら寝るまでという感じで、やはり地域が好きなだけ。

(H委員) 私はそれが一番大事な部分だと思う。人と人とのつながりを大切にし、人のために動ける人をどう作っていくかに焦点をあてた人材育成を考えていった方が良いと思う。

(委員長) 藤島は、地域づくりに保護者を巻き込みPTAも一緒に参加している。地域づくりに一生懸命取り組んでいる大人の姿を子どもにも見せながら、地域づくりについて伝えていけたら良いと思う。

(J委員) 私はこの委員会から元気づけていただき、自分自身が何かをしなければいけないことを教えていただいた。温海川集落は、小さな集落だが、地域内の住民のつながりを大切にしている地域で、イベントなどは住民が皆協力し行っている。藤島の齋藤会長の地域への熱い思いと、自分が何をすべきかを常に考え行動していることに胸を打たれ

た。地域住民が、互いに地域への思いを持ち続け取り組み、小さな成功体験を積み重ねていくことが大切であることを勉強した。

(委員長) 貴重なご意見等ありがとうございました。今日の会議をライブ配信出来れば良いかと思う。今年度最後の会議で、委員の任期の交代も残念ながらある方もいらっしゃると思うので、これを話しておきたいという方はいらっしゃるか。忠鉢会長、齋藤会長のお話からは、本当に地域によっていろいろな工夫があるということを感じたし、その裏には、地域の伝統文化、仕組み、自分たちが生きていくための様々なルールがあり、共通しているのは本当にいろんな工夫をしながらなるべく皆を参加させたいという思いであることが非常によく伝わってきた。地域でも同じような取組があると思うが、さらに広まっていくことを願っており、皆様から、温海川や藤島での取組を情報発信いただければ有難い。大変内容の濃い委員会でも私も大変勉強させていただいた。本日発表いただいた、忠鉢会長と齋藤会長に今一度感謝し拍手を送りたい。ありがとうございました。それでは次第に沿いその他として皆様から何かございますか。本日欠席の委員から、私も関わっている山形社会貢献基金について情報提供いただいている。庄内からの応募件数が少ないので、鶴岡の皆さんも是非ご活用いただきたい。それから地域共創コーディネーター養成プログラムについての宣伝で、昨年もチラシをご案内させていただいたが、人気があるプログラムで行政、NPO、地域おこし協力隊員、議員等、様々な立場の方の参加があり、コミセンで予算を取り事務局が受講しているケースもある。受講料が多少高めだが、ご検討と周知にご協力いただきたい。大学院のホームページ、Facebook等にその情報を載せている。最初の二回のみでの参加も可能であるので受講いただければと思う。他に皆様から何か情報提供や来年度に向けての意見、提案等ございますか。それでは、意見交換等を終わらせていただく。本当に皆様ご協力ありがとうございました。では事務局にお返しする。

(事務局) 委員長どうもありがとうございました。委員の皆様からも活発なご意見いただきありがとうございました。「4、その他」で、皆様から何かお知らせやご紹介いただくことができましたらお願いします。特にないようですので閉会とさせていただきますが、委員の皆様は今月末で任期満了となるので、ここで市民部長より謝辞があります。

(市民部長) 本日は、委員の皆様より本市のコミュニティ施策等につきまして、長時間に渡ってご意見、ご議論を賜り、大変素晴らしい事例発表をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。私も皆様のご意見等、拝聴させていただき大変考えさせられ、今後の仕事へ反映させていきたいと思ったところです。ただ今、委員長、事務局からも話がありましたように、委員の皆様のご任期については、今回を持ちまして平成27年度から2年一期の区切りとなります。委員の皆様からは、2年間に渡り数々の貴重なご意見をいただき、特にコミュニティ推進計画の策定と推進にご尽力いただきましたことに改めて深く感謝を申しあげます。皆様のますますのご健勝をご祈念いたしますとともに今後も施策へのご協力を賜りますことをお願い申し上げます、御礼のことばとさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局) それでは、以上をもちまして、第2回地域コミュニティ活性化推進委員会を閉会とさせていただきます。今日は、忙しいところ誠にありがとうございました。